

栄養士養成課程短期大学生の「しののめベジガール」活動を通じた社会人基礎力の醸成に関する調査

(松山東雲短期大学) 田中 洋子
(松山東雲短期大学) 亀岡 恵子
(教育学研究科) 岡田 英作

Survey on the cultivation of fundamental skills for business through the activities of the Shinonome Vege-Girls, junior college students of the nutritionist training course

Yoko TANAKA, Keiko KAMEOKA, and Eisaku OKADA

(2023年9月1日受付・2023年11月28日受理)

キーワード：しののめベジガール (Shinonome Vege-Girls), 愛顔の E-IYO プロジェクト (Smile E-IYO project), 栄養士養成 (nutritionist training), 社会人基礎力 (fundamental skills for business), アクティブ・ラーニング (active leaning)

1. 研究の背景と目的

愛媛県では 2016 年、愛媛のものづくりを担う若い世代・働き盛りを対象として、朝食欠食率と野菜不足改善のため、栄養・食生活改善支援事業「愛顔 (えがお) の E-IYO (えいよう) プロジェクト」に取り組むこととなった。栄養士養成課程である松山東雲短期大学食物栄養学科は、2017 年に野菜帽がトレードマークの「しののめベジガール」を立ち上げ、カゴメ (株) と連携し、1 杯で不足分の野菜を摂取できる野菜スムージーを考案し、学食で販売した。2018 年には一般の方にスムージーを販売し、カゴメ (株) の食育教室や行政の健康フォーラム等での啓発活動を実施し、「しののめベジガール」が認知され始めた (田中・亀岡, 2020)。以後、この活動は、代々後輩に受け継がれ、「朝食を食べよう! 野菜を食べよう!」をスローガンに、継続した啓発活動を行い、2020 年には、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村 (む

ら) の宝」に選定された。「しののめベジガール」は 2023 年には 7 代目となり、メンバーは延べ 137 人になる。2021 年には、コロナ禍で飲食店の営業停止により卸先が激減し、消費が減少した愛媛県産魚の需要拡大のため、「しののめ魚魚 (ぎょぎょ) っとガール」を結成した。これらの活動は、カゴメ (株)・大塚製薬 (株)・帝人 (株) ほか多数の企業 (産) と松山東雲短期大学 (学) と中国四国農政局や愛媛県等 (官) との産学官連携であるとともに、学生たちには「アクティブ・ラーニング」 (Active learning, 以下 AL と略す) でもある。

文部科学省中央教育審議会 (2012) は、AL について、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育

成を図る」等と定義している。このALに関して、文部科学省教育課程企画特別部会（2015）は、教育課程において育成すべき資質・能力の三つの柱として「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」を示した上で、これらの育成すべき資質・能力を育むために、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びとしてのALを重視している。文部科学省教育課程部会総則・評価特別部会（2016）は、ALの視点からの不断の授業改善のポイントとして、「深い学びの過程」「対話的な学びの過程」「主体的な学びの過程」という3点の実現を挙げている。

管理栄養士の養成に関する先行研究では、管理栄養士のコンピテンシー（高い業績を出す個人の行動特性）の作成（永井他，2012）や評価（長幡他，2012），社会人基礎力を構成する「考え抜く力（シンキング）」（石塚，2014，2016）が検討されている。社会人基礎力とは、久保田（2013）によれば、経済産業省が2006年に海外のジェネリック・スキルの定義に基づいて定めている、職場や地域社会で多様な人々と仕事していくために必要な基礎的な力である3つの能力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」とそれに付随する12の能力要素のことである。12の能力要素には、①主体性、②働きかけ力、③実行力、④課題発見力、⑤計画力、⑥創造力、⑦発信力、⑧傾聴力、⑨柔軟性、⑩状況把握力、⑪規律性、⑫ストレスコントロール力を含んでいる（経済産業省・中央企業庁，2018）。経済産業省・中央企業庁（2018）は、「人生100年時代」ならではの切り口・視点から、2006年に提唱した社会人基礎力を新たに定義しているが、3つの能力と12の能力要素を内容とする点に変わりはない。

本校（松山東雲短期大学）の栄養士養成課程においても、栄養士としての資質・能力に加えて、永井他（2012）の管理栄養士のコンピテンシーと

同様に、社会人基礎力を中心としたジェネリック・スキルを醸成することは重要であると筆者らは考えている。

そこで、短期大学の栄養士養成課程で養成すべき「栄養士」に必要な資質・能力を向上させるために効果的な教育プログラムとはどのようなものか、その教育プログラムは同時にジェネリック・スキルの醸成を図ることができるのかについて、一貫して食育啓発活動を行ってきた「しののめベジガール」活動から、「深い学びの過程」「対話的な学びの過程」「主体的な学びの過程」というAL効果のエビデンスを得て検証した。

栄養士の活動のひとつに食育啓発活動があるが、栄養士を目指す学生もまた、自らの食生活習慣を主体的な行動変容により改善していく必要があると筆者らは考えている。本研究では、「しののめベジガール」活動への参加者に対して、卒業時に食生活習慣および経済産業省の提示する社会人基礎力の3つの能力と12の能力要素に関するアンケート調査を実施した。

アンケート調査を通じて、「しののめベジガール」活動への参加学生の食育啓発活動を通じた食生活習慣の行動変容および社会人基礎力を測定するとともに、「しののめベジガール」の地域食育活動の企画・実施が学生の食生活習慣および社会人基礎力の育成に及ぼした影響について検討した。

2. 方法

2017年から2021年に松山東雲短期大学食物栄養学科2年次に在籍した学生のうち、「しののめベジガール」活動に参加した学生108人を対象とした。「しののめベジガール」活動は、1年次末に2年次の「卒業研究」の授業の担当教員を選択し、2年次から活動するため、短期大学卒業時にアンケート調査を実施した。

アンケート内容は、本研究末尾に資料1-1、1-2として載録しているが、(1)学生自身の食生活に関する項目（資料1-1）および(2)社会人基礎力に関する項目（資料1-2）から構成されている。

(1) 学生自身の食生活に関する項目は、1年次および2年次の「愛顔の E-IYO プロジェクト」参加後は、ともに、①朝食を食べる頻度はどのくらいですか<1. 毎日 2. 週に 5~6 回 3. 週に 2~4 回 4. ほとんど食べない>、②野菜料理を1日にどのくらい食べていますか<1. 0皿 2. 1皿 3. 2皿 4. 3皿 5. 4皿 6. 5皿以上>、③栄養バランスに気を付けていますか<1. ほとんどしていた/ほとんどしている 2. 時々していた/時々している 3. あまりしていなかった/あまりしていない>の3項目である。そして、2年次の「愛顔の E-IYO プロジェクト」参加後のみ、④愛顔の E-IYO プロジェクトに参加した感想をお聞かせください、と感想を求めた。

(2) 社会人基礎力12項目は、①主体性(物事に進んで取り組む力)、②働きかけ力(他人に働きかけ巻き込む力)、③実行力(目的を設定し、確実に行動する力)、④課題発見力(現状を分析し、目的や課題を明らかにする力)、⑤計画力(課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力)、⑥創造力(新しい価値を生み出す力)、⑦発信力(自分の意見をわかりやすく伝える力)、⑧傾聴力(相手の意見を丁寧に聴く力)、⑨柔軟性(意見の違いや立場の違いを理解する力)、⑩状況把握力(自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力)、⑪規律性(社会のルールや人との約束を守る力)、⑫ストレスコントロール力(ストレスの発生源に対応する力)の12項目について、<1. 全くない 2. ほとんどない 3. ある程度ある 4. かなりある 5. とてもある>の5件法で回答を求めた。

解析 1

社会人基礎力の12項目に対応する回答において、「しののめベジガール」活動の効果を検証するために、卒業(2年生)時の振り返りによる1年次と比較して2年次に獲得した点数の差を算出した。こうした差の検討という手法については、田中(2017)が行っており、本研究で参考にした。さらに、各12項目の獲得に関連する具体的な活

動(1. スムージー考案 2. スープ考案 3. スムージー販売 4. イベント参加 5. 学祭参加 6. 媒体作成 7. プレゼン 8. 卒論まとめ 9. その他)のクロス集計を実施した。

解析 2

栄養士養成課程において野菜料理に特に関心のある学生の参加する「しののめベジガール」活動を通じて、参加学生が野菜料理を沢山食べるという自らの食生活習慣の行動変容に、栄養士の養成において注目されている社会人基礎力が影響を及ぼしているかを検討するために、「現在、野菜料理を沢山食べることに」に関連する社会人基礎力項目を抽出した。目的変数を「②野菜料理を1日にどのくらい食べていますか<1. 0皿 2. 1皿 3. 2皿 4. 3皿 5. 4皿 6. 5皿以上>」において、1日に食べる野菜の皿数が2皿までの群(0皿, 1皿, 2皿)と3皿以上食べる群(3皿, 4皿, 5皿以上)の2群に分けて、社会人基礎力12項目の回答得点を説明変数として、二項ロジスティック回帰分析を実施した。健康日本21(第2次)(厚生労働省, 2013)、第4次食育推進計画(厚生労働省, 2021)ともに野菜の目標摂取量は350gであり、小鉢にすると5皿分が目標となることから、その2分の1以上摂取群とそれ未満群の2群に分けた。

倫理的配慮

本調査は松山東雲短期大学研究倫理審査委員会の承諾(承認番号:2023-60)を得て実施した。

3. 結果

アンケート回答者108人は、松山東雲短期大学食物栄養学科に所属し、「しののめベジガール」活動に参加した18歳から20歳の女子学生であり、2017年度30人(27.8%)、2018年度19人(17.6%)、2019年度30人(27.8%)、2020年度18人(16.7%)、2021年度11人(10.2%)である。なお、以下で言及する図表については、本研究末尾にまとめて示した。

(1) 学生自身の食生活に関する項目のうち、①

「朝食を食べる頻度」の質問において、1. 毎日食べる人数は1年次では60人、2年次では61人、2. 週に5~6回食べる人数は1年次では20人、2年次では20人、3. 週に2~4回食べる人数は1年次では18人、2年次では18人、4. ほとんど食べない人数は1年次では10人、2年次では9人であった(図1)。

②「1日に食べる野菜料理」の質問において、1日に食べる野菜料理1.0皿の人数は1年次では6人、2年次では3人、1日に食べる野菜料理2.1皿の人数は1年次では34人、2年次では26人、1日に食べる野菜料理3.2皿の人数は1年次では37人、2年次では31人、1日に食べる野菜料理4.3皿の人数は1年次では20人、2年次では30人、1日に食べる野菜料理5.4皿の人数は1年次では11人、2年次では15人、1日に食べる野菜料理6.5皿以上の人数は1年次では0人、2年次では3人であった(図2)。

③「栄養バランスに気をつけていたか」の質問において、1. ほとんどしているの人数は1年次では15人、2年次では35人、2. 時々しているの人数は1年次では69人、2年次では63人、3. あまりしていないの人数は1年次では24人、2年次では10人であった(図3)。

④「愛顔のE-IYOプロジェクトに参加した感想」の質問については、食生活に関する感想は34人、プロジェクトの内容に関する感想は14人、地域や人との関わりについての感想は10人あり、いずれも同プロジェクトが栄養士養成課程の学びとしてよかったという内容であった(図4)。

次に(2)社会人基礎力12項目について、社会人基礎力の能力要素①主体性(物事に進んで取り組む力)に対応する回答において、1年次と比較して2年次に獲得した点数の差の合計は85点(0点:40人、1点:53人、2点:13人、3点:2人)であり、108人中68人(63.0%)において①主体性が向上した(図5)。表1に示したように、①主体性と具体的な活動(1. スムージー考案 2. スープ考案 3. スムージー販売 4. イベント参

加 5. 学祭参加 6. 媒体作成 7. プレゼン 8. 卒論まとめ 9. その他)のクロス集計において、①主体性と関連する具体的な活動は、4. イベント参加(23人)が最も多かった。

社会人基礎力の能力要素②働きかけ力(他人に働きかけ巻き込む力)に対応する回答において、1年次と比較して2年次に獲得した点数の差の合計は80点(0点:46人、1点:46人、2点:14人、3点:2人)であり、108人中62人(57.4%)において②働きかけ力が向上した(図6)。表1に示したように、②働きかけ力と具体的な活動のクロス集計において、②働きかけ力と関連する具体的な活動は、4. イベント参加(29人)が最も多かった。

社会人基礎力の能力要素③実行力(目的を設定し、確実に行動する力)に対応する回答において、1年次と比較して2年次に獲得した点数の差の合計は75点(0点:46人、1点:51人、2点:9人、3点:2人)であり、108人中62人(57.4%)において③実行力が向上した(図7)。表1に示したように、③実行力と具体的な活動のクロス集計において、③実行力と関連する具体的な活動は、3. スムージー販売(16人)が最も多かった。

社会人基礎力の能力要素④課題発見力(現状を分析し、目的や課題を明らかにする力)に対応する回答において、1年次と比較して2年次に獲得した点数の差の合計は66点(0点:53人、1点:45人、2点:9人、3点:1人)であり、108人中55人(50.9%)において④課題発見力が向上した(図8)。表1に示したように、④課題発見力と具体的な活動のクロス集計において、④課題発見力と関連する具体的な活動は、4. イベント参加(10人)が最も多かった。

社会人基礎力の能力要素⑤計画力(課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力)に対応する回答において、1年次と比較して2年次に獲得した点数の差の合計は76点(0点:49人、1点:45人、2点:11人、3点:3人)であり、108人中59人(54.6%)において⑤計画力が向上

した(図9)。表1に示したように、⑤計画力と具体的な活動のクロス集計において、⑤計画力と関連する具体的な活動は、3. スムージー販売(15人)が最も多かった。

社会人基礎力の能力要素⑥創造力(新しい価値を生み出す力)に対応する回答において、1年次と比較して2年次に獲得した点数の差の合計は73点(0点:49人, 1点:47人, 2点:10人, 3点:2人)であり、108人中59人(54.6%)において⑥創造力が向上した(図10)。表1に示したように、⑥創造力と具体的な活動のクロス集計において、⑥創造力と関連する具体的な活動は、2. スープ考案(16人)が最も多かった。

社会人基礎力の能力要素⑦発信力(自分の意見をわかりやすく伝える力)に対応する回答において、1年次と比較して2年次に獲得した点数の差の合計は75点(0点:49人, 1点:45人, 2点:12人, 3点:2人)であり、108人中59人(54.6%)において⑦発信力が向上した(図11)。表1に示したように、⑦発信力と具体的な活動のクロス集計において、⑦発信力と関連する具体的な活動は、7. プレゼン(17人)が最も多かった。

社会人基礎力の能力要素⑧傾聴力(相手の意見を丁寧に聴く力)に対応する回答において、1年次と比較して2年次に獲得した点数の差の合計は65点(0点:52人, 1点:48人, 2点:7人, 3点:1人)であり、108人中56人(51.9%)において⑧傾聴力が向上した(図12)。表1に示したように、⑧傾聴力と具体的な活動のクロス集計において、⑧傾聴力と関連する具体的な活動は、4. イベント参加(18人)が最も多かった。

社会人基礎力の能力要素⑨柔軟性(意見の違いや立場の違いを理解する力)に対応する回答において、1年次と比較して2年次に獲得した点数の差の合計は61点(0点:56人, 1点:45人, 2点:5人, 3点:2人)であり、108人中52人(48.1%)において⑨柔軟性が向上した(図13)。表1に示したように、⑨柔軟性と具体的な活動のクロス集計において、⑨柔軟性と関連する具体的

な活動は、4. イベント参加(13人)が最も多かった。

社会人基礎力の能力要素⑩状況把握力(自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力)に対応する回答において、1年次と比較して2年次に獲得した点数の差の合計は67点(0点:49人, 1点:52人, 2点:6人, 3点:1人)であり、108人中59人(54.6%)において⑩状況把握力が向上した(図14)。表1に示したように、⑩状況把握力と具体的な活動のクロス集計において、⑩状況把握力と関連する具体的な活動は、4. イベント参加(21人)が最も多かった。

社会人基礎力の能力要素⑪規律性(社会のルールや人との約束を守る力)に対応する回答において、1年次と比較して2年次に獲得した点数の差の合計は57点(0点:59人, 1点:42人, 2点:6人, 3点:1人)であり、108人中49人(45.4%)において⑪規律性が向上した(図15)。表1に示したように、⑪規律性と具体的な活動のクロス集計において、⑪規律性と関連する具体的な活動は、4. イベント参加(23人)が最も多かった。

社会人基礎力の能力要素⑫ストレスコントロール力(ストレスの発生源に対応する力)に対応する回答において、1年次と比較して2年次に獲得した点数の差の合計は63点(0点:61人, 1点:34人, 2点:10人, 3点:3人)であり、108人中47人(43.5%)において⑫ストレスコントロール力が向上した(図16)。表1に示したように、⑫ストレスコントロール力と具体的な活動のクロス集計において、⑫ストレスコントロール力と関連する具体的な活動は、8. 卒論まとめ(8人)が最も多かった。

表2に「現在、野菜料理を沢山食べることを目的変数、社会人基礎力12項目を説明変数として二項ロジスティック回帰分析した結果を示した。社会人基礎力の能力要素⑪規律性の偏回帰係数(β)の係数がプラス(+:正)となり、⑪規律性は目的変数である「野菜摂取3皿以上」に統計学的有意($p<0.05$)に正の効果を与えた。すなわち、

⑪規律性は回答点数が高いほど、「野菜摂取 3 皿以上」には正の効果を与え、「野菜摂取 3 皿以上」には⑪規律性の高さが関連した。なお、朝食の食べる頻度や栄養バランスと社会人基礎力 12 項目との間には、有意な関係が見られなかった。

4. 考察

本校における栄養士養成教育は、栄養学、食品学、調理学等の基礎知識を活用し、人々の健康の維持増進に寄与するため、チームとして協働し、栄養改善をサポートできる人材を育成することを主眼としている。

本研究において、「しののめベジガール」活動について、短期大学の栄養士養成課程におけるALを活用しながら、学生自身の日常生活の食生活習慣改善と社会人基礎力の醸成の観点から評価した。本アンケート調査において、約1年間「しののめベジガール」活動に参加した学生に対する社会人基礎力の12項目に対応した設問の回答結果から、参加学生のうち、①主体性は63.0%、②働きかけ力は57.4%、③実行力は57.4%、④課題発見力は50.9%、⑤計画力は54.6%、⑥創造力は54.6%、⑦発信力は54.6%、⑧傾聴力は51.9%、⑨柔軟性は48.1%、⑩状況把握力は54.6%、⑪規律性は45.4%、⑫ストレスコントロール力は43.5%の学生に上昇が認められ、関連する具体的な活動は「4. イベント参加」が社会人基礎力の7項目、「3. スムージー販売」が2項目、「2. スープ考案」が1項目、「7. プレゼン」と「8. 卒論まとめ」が各1項目であった。「しののめベジガール」活動は、特に①主体性の育成において有効である可能性が考えられる。また、普段の食生活において「野菜摂取 3 皿以上」には社会人基礎力のうち現在の⑪規律性の高さが正の効果を与えたことが判明した。⑪規律性とは、社会のルールや人との約束を守る力である。⑪規律性は、具体的な「しののめベジガール」活動のうち「4. イベント参加」が最も関連し、社会人基礎力の中で最も変化が少なかった項目ではあるが、「しののめベジガール」活動の

中での「野菜摂取」の啓発活動を通して、専門的知識として野菜摂取の健康効果を学んだ学生は、野菜を摂取すると自分で決め、これを守ることができるという自己効力感が高まり、自らも「野菜を摂取する」という行動変容に繋がっていると考えられる。「しののめベジガール」活動は、まさに「行動変容型プログラム」と言える。

近年の大学においては、21世紀型市民として自立した行動ができるような、幅の広さや深さを持つものとして、学生の学習成果に関する目標を設定することが重要であり（文部科学省中央教育審議会, 2008）、そこで注目されるのが、久保田（2013）や任他（2017）も指摘するように、職業に関わらず求められる能力である「社会人基礎力」を中心としたジェネリック・スキルの醸成である。

ALについて、文部科学省中央教育審議会（2012）は、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図っており、文部科学省教育課程部会総則・評価特別部会（2016）は、ALの視点からの不断の授業改善のポイントである「深い学びの過程」「対話的な学びの過程」「主体的な学びの過程」という3点の実現を挙げている。

栄養士養成教育は、資格取得を目的とした職業教育として重要である。加えて、卒業生自身が生涯を通して、職業に従事するための汎用的能力を育成する観点が今後必要であると考えられる。「しののめベジガール」活動を通じて、野菜摂取のための発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるなか、グループ内での討論、相談活動、野菜料理創作も有効なALとなったと言える。

「社会人基礎力」を構成する3つの能力とALの視点の関連について考察すると、「前に踏み出す力」は「主体的な学びの過程」と、「考え抜く力」は「深い学びの過程」と、「チームで働く力」は「対話的な学びの過程」と対応し得る。「しののめベジガール」活動では、食物栄養学科教員が支援しながら、学生が専門性を活かしたレシピや

調理方法を考案し（主体的な学びの過程）、販売と栄養教育を通じて栄養士養成の学びが社会の中でどのように役立つのか（深い学びの過程）について協働を通して体感し、現場に対応できる実践力を培うこと（対話的な学びの過程）を活動の目標としてきた。

日本栄養改善学会が2015年8月に作成した「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」は、年次進行にあわせて習得すべき達成目標とは別に「I. 全学年を通して学ぶ項目」を新しく提示した（日本栄養改善学会，2015）。本学科では栄養改善学会の提言に基づき、栄養士として、2年間（全学年）を通じて社会人基礎力を身につけ、個人や集団を対象に、食生活に関する安全で正しい栄養の知識を普及し、好ましい食行動を実践することを目標（関口他，2012）とし、そして習慣化することを目標としている。

栄養士を志す学生は、将来、子どもから高齢者、健常者および傷病者や障がい者等、社会に暮らす全ての人々の健康の維持・増進のため、自らと対象者に行動変容を促す能力を身につける必要がある。そのうち学生自身にとっては、普段の食生活において「野菜摂取3皿以上」という野菜摂取増加には、社会人基礎力のうち現在の⑩規律性の高さが関連することから、本学食物栄養学科「し のめベジガール」活動を通じて育成された現在の⑩規律性の高さは、野菜摂取増加という行動変容を促す学生自身の意識づけを強化した可能性が示唆された。

5. 結語

本研究が実施したアンケート調査の結果から、「し のめベジガール」活動に参加した学生は、同活動へ参加前と参加後の12の設問で肯定的な回答が増加していることが明らかとなった。「し のめベジガール」活動は、経済産業省が提唱している社会人基礎力の能力要素のうち、特に①主体性の育成において有効である可能性が示唆された。また、「し のめベジガール」活動は、ALの

視点である「主体的な学びの過程」「深い学びの過程」「対話的な学びの過程」の実現に役立つ可能性がうかがわれた。

参考文献

- 石塚 理香 (2014) . 管理栄養士養成課程におけるクリティカルシンキング志向性に関する検討 帝塚山大学現代生活学部紀要, 10, 37-47.
- 石塚 理香 (2016) . 管理栄養士養成課程の学生におけるクリティカルシンキング能力——家庭環境や入学前・後の学習に着目して—— 帝塚山大学現代生活学部紀要, 12, 15-23.
- 任 良懌・神田 晃・真野 博・根岸 聡美・松本 直樹・亀山 ころろ・斉藤 弘樹・秋元 誠・荒木 達夫 (2017) . 管理栄養士養成実習実習におけるアクティブ・ラーニングの活用——科学的リテラシーと社会人基礎力の観点から—— 科学教育研究, 41 (2) , 179-192. <https://doi.org/10.14935/jssej.41.179>
- 久保田 祐歌 (2013) . 大学におけるジェネリック・スキル教育の意義と課題 愛知教育大学教育創造開発機構紀要, 3, 63-70.
- 経済産業省・中央企業庁 (2018) . 「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」(人材力研究会) 報告書. Retrieved May 28, 2023, from https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180319001_1.pdf
- 厚生労働省 (2013) . 健康日本21(第二次) 国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針. Retrieved October 19, 2023, from https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/dl/kenkounipp on21_01.pdf
- 厚生労働省 (2021) . 第4次食育推進計画. Retrieved October 19, 2023, from <https://www.mhlw.go.jp/content/000770380.pdf>
- 関口 紀子・蔵迫 栄美子・石井 幸江・宇和川 小百合・加藤 由美子・相良 多喜子・塩入 輝恵・

- 山下 静江・和田 涼子 (2012) . 栄養教育論—
—栄養の指導— 学建書院, 3-4.
- 田中 慶一 (2017) . 体育会学生における社会人基
礎力に関する分析——小樽商科大学の大学生を
対象とした体育会とサークルの比較分析——
平成 29 年度小樽商科大学学術研究奨励事業第
12 回「学生論文賞」 .
Retrieved October 19, 2023, from https://www.otaru-uc.ac.jp/wp-content/themes/main/pdf/cgs/esd/gakuron/h30/h29gakuron_03.pdf
- 田中 洋子・亀岡 恵子 (2020) . 朝食を食べよう！
野菜を食べよう！「愛顔の E-IYO プロジェク
ト」しのめベジガールの取組み——4 年間の取
組みから見えてきたもの—— 松山東雲短期大
学研究論集, 51, 77–86.
- 永井 成美・赤松 利恵・長幡 友実・吉池 信男・
石田 裕美・小松 龍史・中坊 幸弘・奈良 信雄・
伊達 ちぐさ (2012) . 卒前教育レベルの管理栄
養士のコンピテンシー測定項目の開発 栄養学
雑誌, 70 (1) , 49–58. <https://doi.org/10.5264/eiyogakuzashi.70.49>
- 長幡 友実・吉池 信男・赤松 利恵・永井 成美・
石田 裕美・中坊 幸弘・小松 龍史・奈良 信雄・
伊達 ちぐさ (2012) . 管理栄養士養成課程学生
の卒業時点におけるコンピテンシー到達度 栄
養学雑誌, 70 (2) , 152–161. <https://doi.org/10.5264/eiyogakuzashi.70.152>
- 日本栄養改善学会 (2015) . 管理栄養士養成課程
におけるモデルコアカリキュラム 2015 の提案.
Retrieved May 28, 2023, from https://jsnd.jp/img/model_core_2015.pdf
- 文部科学省教育課程企画特別部会 (2015) . 教育
課程企画特別部会 論点整理.
Retrieved May 28, 2023, from https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf
- 文部科学省教育課程部会総則・評価特別部会 (20
16) . アクティブ・ラーニングの視点と資質・
能力に関する参考資料.
Retrieved May 28, 2023, from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/061/siryu/_icsFiles/afieldfile/2016/03/03/1367713_2_2.pdf
- 文部科学省中央教育審議会 (2008) . 学士課程教
育の構築に向けて (答申) .
Retrieved May 28, 2023, from https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf
- 文部科学省中央教育審議会 (2012) . 新たな未来
を築くための大学教育の質的転換に向けて～生
涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学
へ～ (答申) 用語集.
Retrieved May 28, 2023, from https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf

【愛顔のE - IYOプロジェクト】

食生活に関するアンケート

あてはまる番号に○をつけてください

〈あなたの食物栄養学科1年生の時の食生活について、振り返ってお答えください〉

- ① 朝食を食べる頻度はどのくらいでしたか
1. 毎日 2. 週に5~6回 3. 週に2~4回 4. ほとんど食べない
- ② 野菜料理を1日にどのくらい食べていましたか（1皿小鉢1皿程度として）
1. 0皿 2. 1皿 3. 2皿 4. 3皿 5. 4皿 6. 5皿以上
- ③ 栄養バランスに気をつけていましたか
（主食・主菜・副菜をそろえた食事をしていましたか）
1. ほとんどしていた 2. 時々していた 3. あまりしていなかった

〈食物栄養学科2年生愛顔の栄養プロジェクト参加後の現在の食生活について〉

- ① 朝食を食べる頻度はどのくらいですか
1. 毎日 2. 週に5~6回 3. 週に2~4回 4. ほとんど食べない
- ② 野菜料理を1日にどのくらい食べていますか
1. 0皿 2. 1皿 3. 2皿 4. 3皿 5. 4皿 6. 5皿以上
- ③ 栄養バランスに気をつけていますか
（主食・主菜・副菜をそろえた食事をしていますか）
1. ほとんどしている 2. 時々している 3. あまりしていない
- ④ 愛顔のE - IYOプロジェクトに参加した感想をお聞かせください

資料 1-2

松山東雲短期大学

下記の①～⑫の項目について、あなたの1年時と現在の自分を主観的に評価し、数字を記入してください。(1.全くない 2.ほとんどない 3.ある程度ある 4.かなりある 5.とてもある)

また、その差(現在-1年時)が正の数である場合は、それぞれの力が「愛顔のE-IY0プロジェクトの取り組み」を通して身についたと考えられるか、該当する数字を記入してください。(1.取り組みを通して身についた 2.それ以外)なお、これが1の場合はその具体的な活動の番号をいくつでも記述してください。(1.スムージー考案 2.スープ考案 3.スムージー販売 4.イベント参加 5.学祭参加 6.媒体作成 7.プレゼン 8.卒論まとめ 9.その他:具体的に記入してください)

	現在	1年時	差	成果なら1	活動
① 主体性 物事に進んで取り組む力					
② 働きかけ力 他人に働きかけ巻き込む力					
③ 実行力 目的を設定し、確実に行動する力					
④ 課題発見力 現状を分析し、目的や課題を明らかにする力					
⑤ 計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力					
⑥ 創造力 新しい価値を生み出す力					
⑦ 発信力 自分の意見をわかりやすく伝える力					
⑧ 傾聴力 相手の意見を丁寧に聴く力					
⑨ 柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解する力					
⑩ 状況把握力 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力					
⑪ 規律性 社会のルールや人との約束を守る力					
⑫ ストレスコントロール力 ストレスの発生源に対応する力					

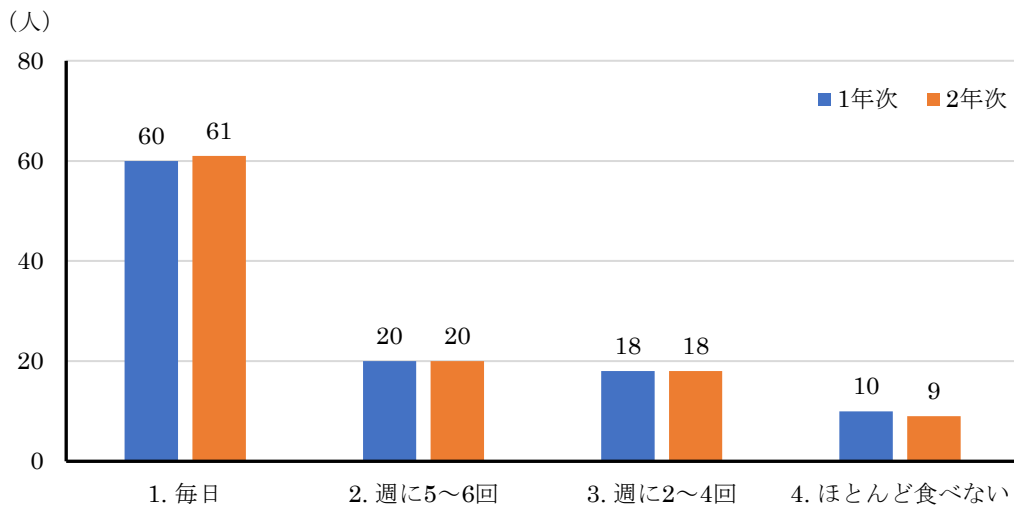


図1：朝食を食べる頻度

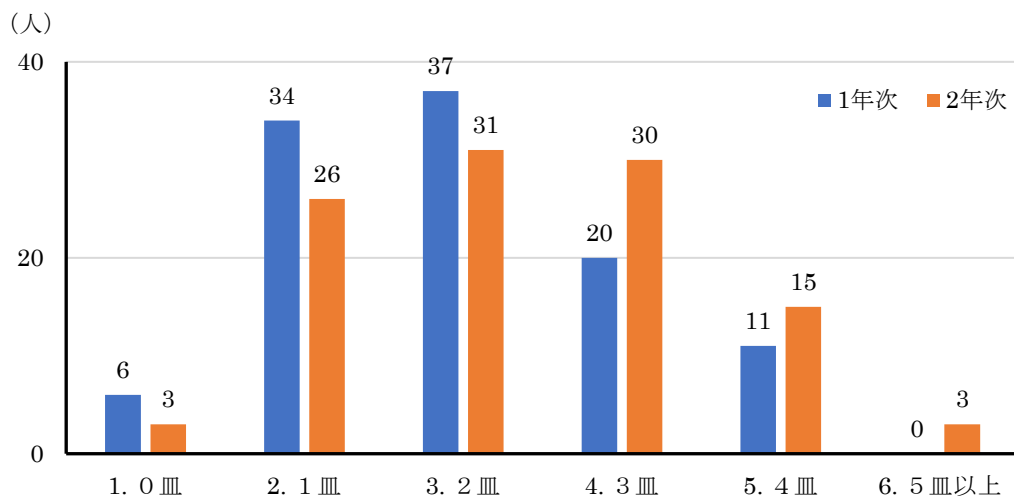


図2：1日に食べる野菜料理

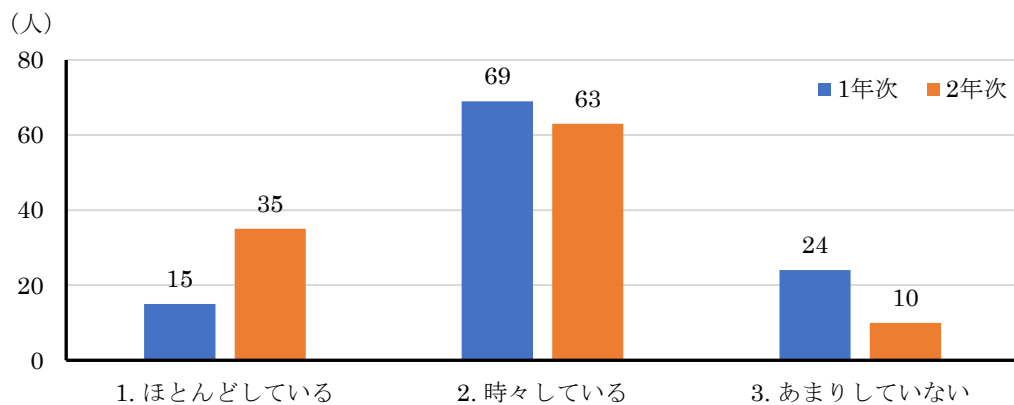


図3：栄養バランスに気をつけていたか

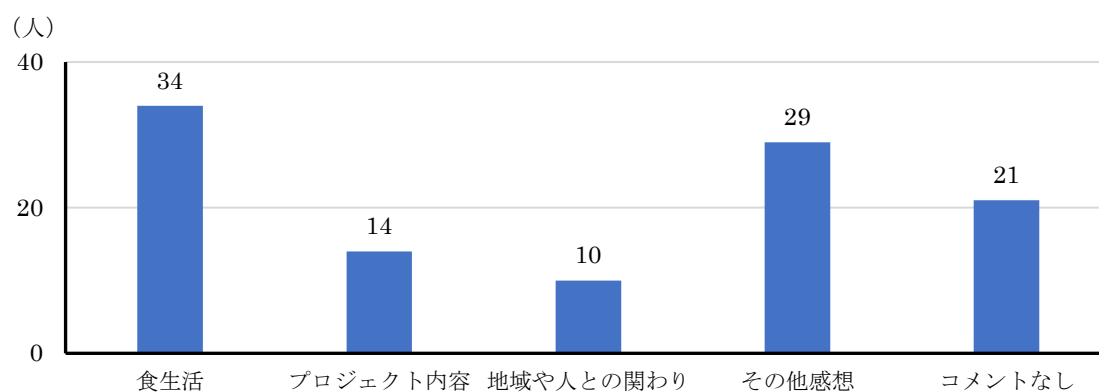


図4：感想内容

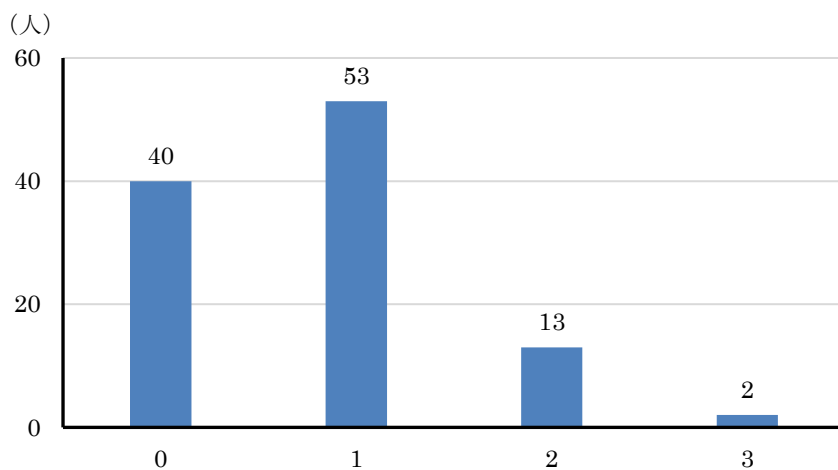


図5：①主体性

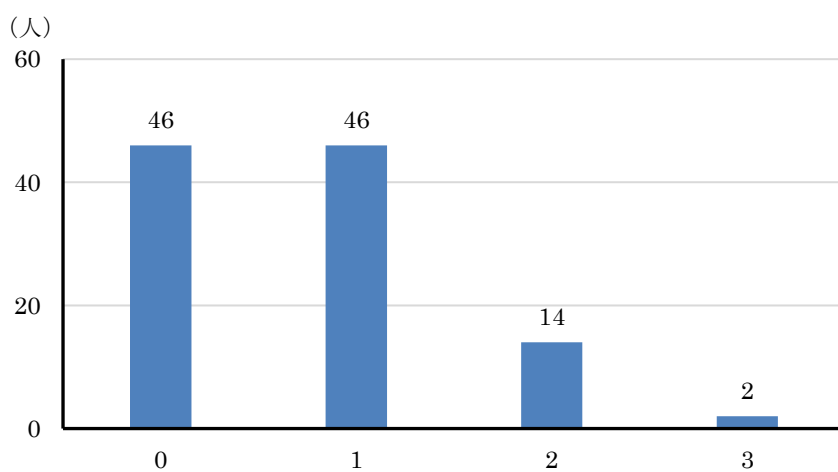


図6：②働きかけ力

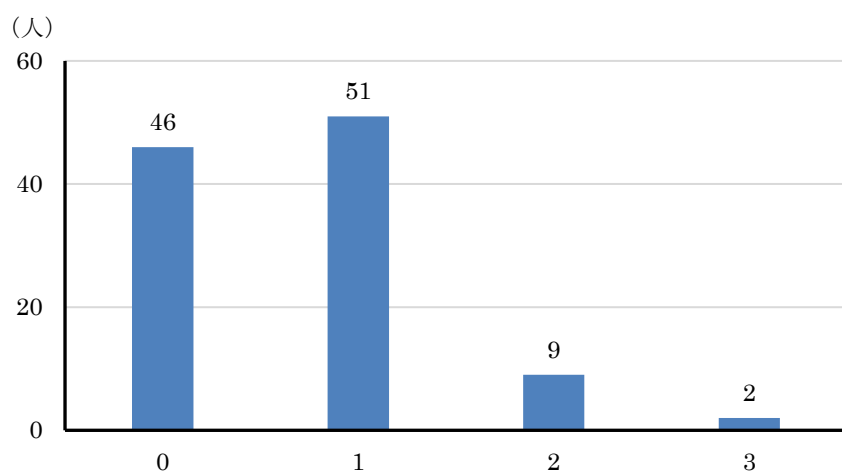


図7：③実行力 2年次と1年次の差 (point)

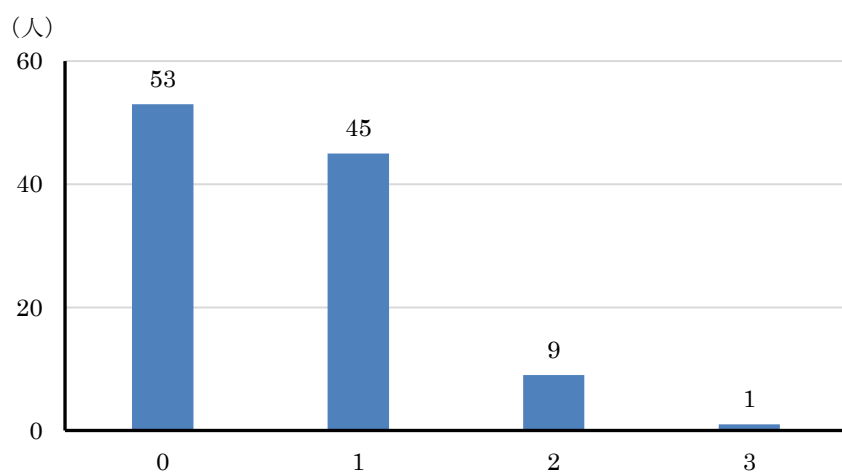


図8：④課題発見力 2年次と1年次の差 (point)

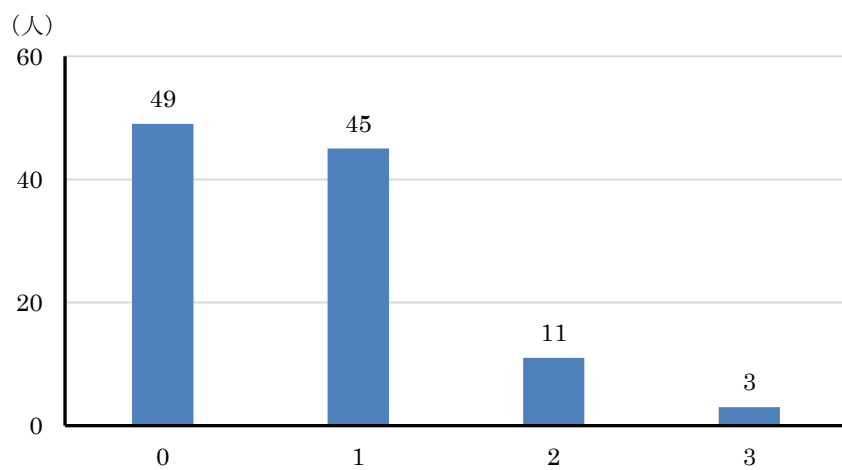


図9：⑤計画力 2年次と1年次の差 (point)

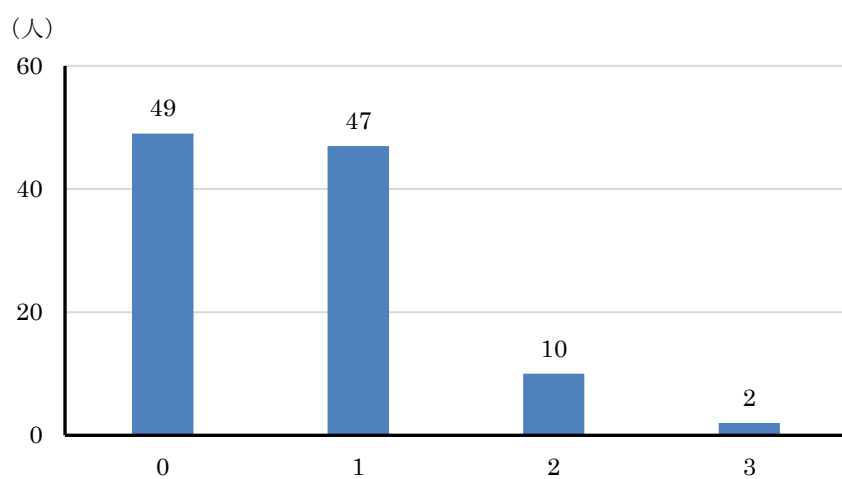


図10：⑥創造力 2年次と1年次の差 (point)

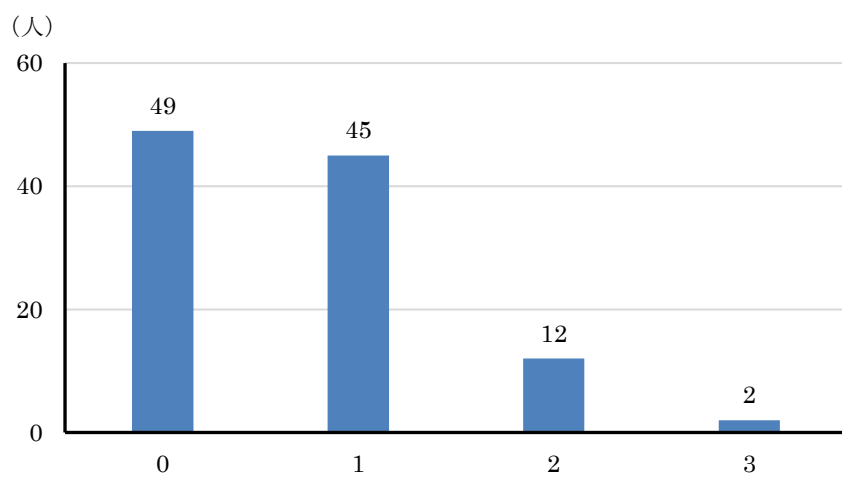


図11：⑦発信力 2年次と1年次の差 (point)

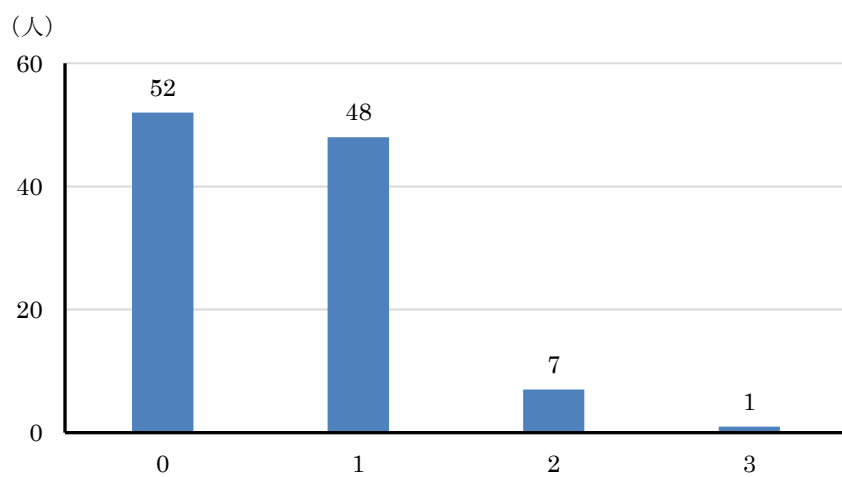


図12：⑧傾聴力 2年次と1年次の差 (point)

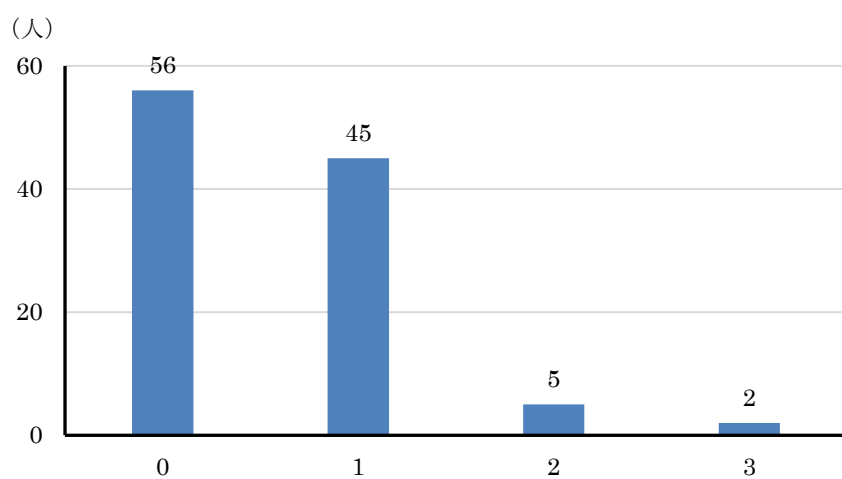


図13：⑨柔軟性 2年次と1年次の差 (point)

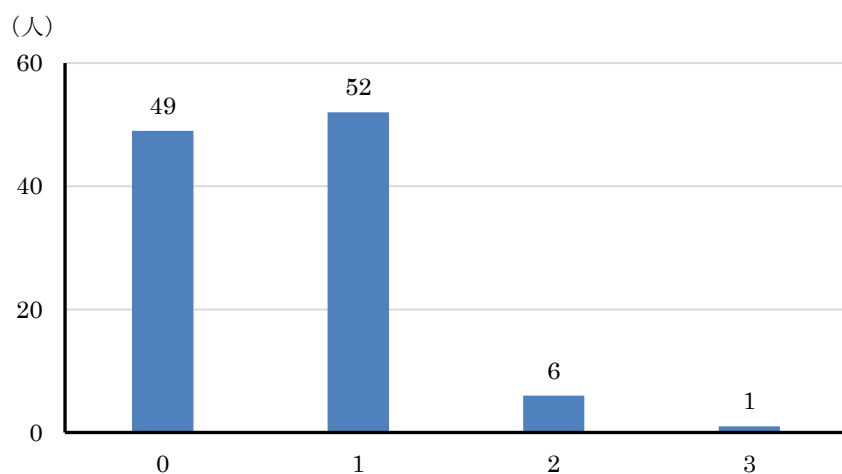


図14：⑩状況把握力 2年次と1年次の差 (point)

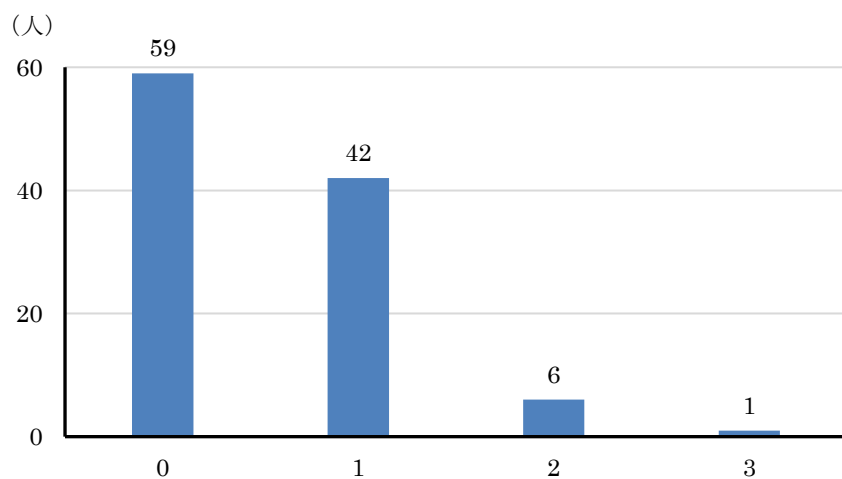


図15：⑪規律性 2年次と1年次の差 (point)

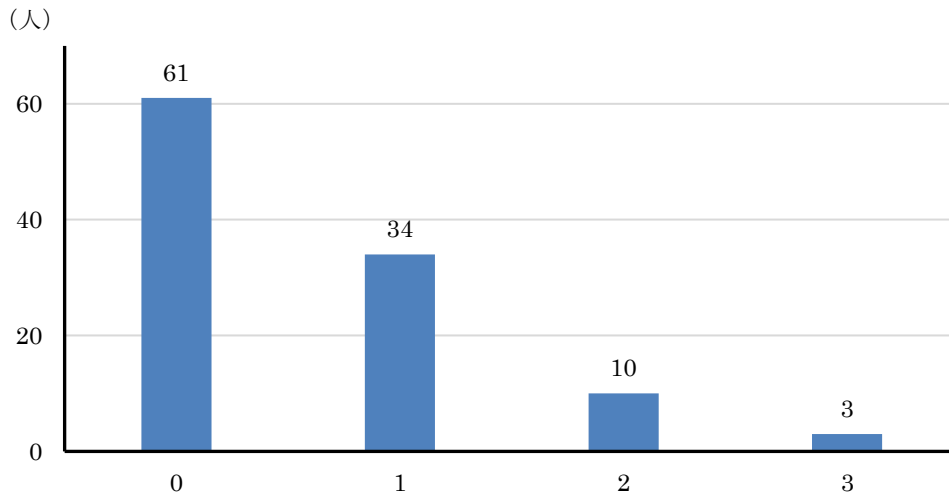


図16: ⑫ストレスコントロール力 2年次と1年次の差 (point)

表 1: 社会人基礎力 12 項目の獲得に関連する具体的な活動に関するクロス集計

具体的な活動(1)-(9)	1.スムージー考案	2.スूप考案	3.スムージー販売	4.イベント参加	5.学祭参加	6.媒体作成	7.プレゼン	8.卒論まとめ	9.その他
①主体性	13	11	15	23	9	3	6	2	1
②働きかけ力	6	5	23	29	10	3	1	3	1
③実行力	9	11	16	15	10	2	3	2	2
④課題発見力	6	8	7	10	4	7	6	6	4
⑤計画力	12	7	15	12	6	8	10	5	2
⑥創造力	15	16	7	11	6	6	3	3	3
⑦発信力	4	4	13	14	5	3	17	9	2
⑧傾聴力	6	4	8	18	2	4	16	3	3
⑨柔軟性	11	9	9	13	5	2	9	2	3
⑩状況把握力	7	3	13	21	8	1	2	4	4
⑪規律性	5	1	9	23	5	3	0	3	2
⑫ストレスコントロール力	6	3	7	7	3	2	3	8	5

表 2: 「現在、野菜料理を沢山食べることに影響を与える社会人基礎力 12 項目に関する二項ロジスティック回帰分析

	β	標準誤差	Wald	df	Exp(β)	有意確率	EXP(β) の 95% 信頼区間	
							下限	上限
主体性	-0.074	0.412	0.033	1	0.928	0.857	0.414	2.083
働きかけ力	0.122	0.412	0.088	1	1.130	0.767	0.504	2.535
実行力	0.075	0.468	0.026	1	1.078	0.873	0.431	2.697
課題発見力	0.307	0.405	0.575	1	1.359	0.448	0.615	3.005
計画力	0.157	0.374	0.175	1	1.170	0.675	0.562	2.436
創造力	-0.044	0.297	0.022	1	0.957	0.882	0.535	1.712
発信力	0.099	0.390	0.065	1	1.104	0.799	0.515	2.371
傾聴力	-0.608	0.410	2.197	1	0.544	0.138	0.243	1.217
柔軟性現在	0.086	0.412	0.044	1	1.090	0.834	0.486	2.444
状況把握力	-0.579	0.440	1.728	1	0.561	0.189	0.236	1.329
*規律性	0.860	0.409	4.427	1	2.363	0.035	1.061	5.264
ストレスコントロール力	0.054	0.324	0.028	1	1.055	0.868	0.559	1.992

*はp値<0.05を示す